

会 議 録

会議の名称	令和元年度第2回天草市総合政策審議会
開催日時	令和元年11月15日(金) 13:30~16:50
開催場所	天草市役所 2階 庁議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、中川委員、福本委員、野上委員、澤田委員、馬場委員、林委員、深川委員
欠席者氏名	井田副会長、松浦委員
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 報告 (1) 令和元年度第1回天草市総合政策審議会の会議録について 4 議題 (1) 天草市行政経営改革大綱アクションプランについて (2) 総合計画に係る関連計画の策定及び改定状況について (3) 第2次天草市総合計画後期基本計画の改定について 5 その他 (1) 天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略について (2) 天草市SDGs推進計画について 6 閉会
審 議 内 容	
1 開会(事務局) 2 会長あいさつ 3 報告 (1) 令和元年度第1回天草市総合政策審議会の会議録について ○事務局より報告。 4 議題 (1) 天草市行政経営改革大綱アクションプランについて ○事務局より説明。 (会長) 投資的経費の削減は毎年3億円ずつ、4年間で12億円、毎年確実に実施できるという考えでいいのか。トータル12億円という考え方でいいのか。 (事務局) これから、大規模な施設整備計画が予定されており、目標としては、毎年3億円というのは、厳しい状況。ただし、単年度ごとの費用を下げる形で目標に近づけていくよう努力していく。来年度予算においても、市として本当に必要なものなのか内容を精査して取り組んでいく。 (委員)	

歳出の削減に取り組んでいる、また、これからもさらに取り組んでいかれることには敬意を表します。しかし、公共事業、普通建設事業、投資的経費を急激に下げってしまうと、天草での建設業など主要産業が、4年後・5年後やっていけるのか心配する部分がある。このことを言うてしまうと削減は難しいかもしれないが、緩やかに、また長期的に削減するという考えはないか。また、積立金の柔軟な活用などの検討もできないか。
(事務局)

投資的経費においては、特別分と一般分の2つに分けている。特別分は、イルカセンターの建設など大きな施設整備費などの大型事業が該当し、この分は事業有無によって変動がある。一方、一般分は、道路整備費などが該当し、この分は、段階的に減らすのではなく、40億円を目途に平準化を考えている。

(会長)

歳入における「ふるさと納税」の額が3億円となっているが、天草市のポテンシャルとしては設定額が低いのではないかと。3億円の根拠を教えてください。

(事務局)

過去2年間は、2億円前後で推移しており、3億円を頑張っって目指すという事で目標を立てたところ。今年度は、人気商品ができ、3億円を超える勢い。県内において天草市は、ふるさと納税額は高い自治体となっている。

しかし、総務省からは、返礼品は3割以内や地場産品に限るなど条件もできており、現在は3億円と設定している。

(会長)

ぜひ、3億円を超え、上方修正できるように頑張っってほしい。天草市としてのいろいろなパターンをつくるなど、戦略的にやってもらいたい。

(委員)

人事評価制度の実施に伴う現状など具体的に説明をお願いしたい。

(事務局)

天草市においては、現在、給与への反映を行っている。定期昇給への反映では、基本的な昇給を4号給とし、成績により号給のプラス、マイナス反映、また、ボーナスにおける勤勉手当において成績率で支給率を変動させる反映を行っている。また、昇任等への反映についても国からは指導があつており、このことも反映させていきたいと考えている。

(委員)

行政サービスにおける民間活用の一つである、市役所以外での住民票の交付の考えについて説明をお願いしたい。

(事務局)

第2次天草市行財政改革大綱におけるアクションプランにおいて、各種証明のコンビニ対応について検討を行った。しかし、経費的な面やマイナンバー制度の開始などにより、現段階では、コンビニ発行には取り組まないと決定したところ。しかし、マイナンバーカードの普及が徐々に進んできており、今後、経費なども考慮しながら検討を行っ

ていきたい。

(委員)

人事評価制度が導入され、職員の取組み方について効果などあったか。

(事務局)

人事評価においては、能力評価と業績評価の2つに分けている。能力評価は勤務評価等。業績評価では、職員や課・係、市など目標を掲げて取り組んでいるため、計画的に業務が遂行出来ていると思われる。

(委員)

支所では、各種証明書の発行はできないのか。

(事務局)

各支所においても、対応している。

(委員)

コンビニは本渡の中心部ぐらいしかないので、経費の問題もあるかもしれないが、地区のコミセンでの発行はできないのか。

(事務局)

証明書の発行事務については、総務省の計画の中では簡易郵便局も対象として入っている。天草の場合、簡易郵便局は各地域にあるので今後検討していきたい。

(委員)

窓口サービスの充実が入っているが、このことは当たり前の事なので、わざわざ計画として取り組むものではないのではないか。

(事務局)

窓口サービスの充実は、元々は本庁開館に合わせ、総合窓口化を図る中での目標として計画していたが、全ての支所にも窓口サービスの充実を意識してもらうために、今回あえて目標を立てている。目標を掲げるということは、評価が必要となり、地域においてのアンバランスがでないような取組みにもつながっていく。この項目は、今回の後期計画4年間に限った計画として位置付けている。

(委員)

ふるさと納税の返礼後等の残りはどの位の額となるのか。

(事務局)

1万円のふるさと納税の場合、返礼品や登録サイトへの手数料を引くと約4千円が市へ残る。なお、天草市民が他自治体へふるさと納税を行っている場合もあり、その分を考慮すると全体としてはもう少し減るとと思われる。できるだけ市に残るような取り組みを行っている。

(会長)

他の自治体では、サイトを通さずに会員登録制度に取り組み、手数料の支出を減らす自治体もある。

(事務局)

本市においても、手数料の支出を減らす対応を行っている。

(会長)

ぜひそういった戦略もあるので、天草市に少しでも多くの納税額が残るような戦略に取り組んで欲しい。

(2) 総合計画に係る関連計画の策定及び改定状況について

○事務局より説明

(会長)

本審議会においては、各分野別計画が総合計画に基づく計画となっているか。また、分野別計画の改定によって総合計画の改定が必要でないかを検討する場となっている。今回は、現在の状況報告ということでもいいのか。

(事務局)

事務局で行うヒアリングでは、各課等において出来上がった計画を確認するのではなく、計画策定の骨子の段階でヒアリングを行い、目標数値や内容についての総合計画との整合性などを確認し、審議会へ報告を行っている。今後、各分野別計画のパブリックコメントの実施を予定している。

(会長)

本来なら、審議会において改定する分野別計画と総合計画の整合性を確認することが必要で、現在は、事務局においてヒアリングを実施し、内容の報告を受け、確認を行っている段階である。もし、質問がある場合は、事務局までお尋ねいただきたい。

(3) 第2次天草市総合計画後期基本計画の改定について

○事務局より説明

(委員)

ジオパークから新たに変わる「自然資源を活用した活動」については、今後も広域的な取組みを前提として進めていくのか。

(事務局)

これまでのジオパークとしての取組みは、効果があっている。2市1町の各首長においても違う形でも継続して取組んでいくことの確認がとれている。

(委員)

中核的な施設としてこれまで位置付けられている御所浦白亜紀資料館の整備進捗状況を説明してほしい。

(事務局)

本年度が基本設計、来年度が実施設計のスケジュールとなっている。業者選定においては、建築と展示の2つに分け、プロポーザルによる選定を行い、先日業者が決定した。今後、決定業者と協議を進め設計に入っていく。

(委員)

今回の説明で、ジオパークにおける経緯、状況がよく分かった。これまで実施されていた出前講座を来年度もお願いしたいと考えているが、実施予定かお尋ねしたい。

(事務局)

出前講座については、天草市の学芸員において実施しており、上天草市及び苓北町から依頼があった場合も公務として天草市の学芸員が対応していた。来年度においても同様の対応を予定しており、ぜひ活用をお願いしたい。

(委員)

市民は、新聞報道等の情報だけで、あまり詳細を理解できていない状況であり、「何でジオパークをやめるのか」など思っている。何らかの機会で今回の説明をぜひ市民の方へ行っていただければ、十分理解していただけると思われる。

(会長)

市民の皆さんが、「これから何をしないといけないのか」などを考えるには情報が必要。シンプルなニュースだと「やめる」しか分からず、逆によくない。いろいろな情報は出したほうがよい。

今回の政策修正において、政策名が「自然資源を活用した活動」となっているが、これまでの説明全体を聞いていれば理解できるが、普通、「自然資源を活用した活動」となるとレジャーやトレッキングなどのイメージになる。今回の場合、「海にうかぶ博物館」とより具体的なことがあげられており、天草の自然環境と文化や教育を併せて取りむもの。これまでは、『ジオパーク』というブランドで包括されていたが、この文言を外すとなると、戦略的な内容を伝えないとこの政策は何を意図するものか分からなくなってしまう。今回の「自然資源」という表現では、これまで行っていた文化や歴史を活かしたという部分が薄くなってきている。内容が分かっている人が見れば分かるかもしれないが、今の案だと、この政策名を見た人には、本当の意図とは違う捉え方になってしまうのではないかと。補足説明資料を見ると、文化や歴史についても表現をされている。内容を精査してほしい。

また、天草市総合計画基本計画における政策・施策計画のづくりでは、関連計画との内容の統合が必要で、関連計画の内容を頭出しすることが重要となっている。これからの策定であっても、そこで記載する内容を総合計画の策定時に検討して記載することになっている。

(事務局)

ジオパークからの新たな政策への変更に伴い、当初は、課題や経緯を現状として記載することを考えていたが、今回は新たな取組みを行うとして、現在の案で作成を行った。新たな政策には、これまでの経緯、また、このような課題があり、今回このような政策に変更したということに記載した方がいいのか。

(会長)

総合計画の位置づけとしては、総合計画の中で、そういったことを掲載する必要はないと思うが、総合計画の「政策」では、天草市が実現したいことを書くことが重要。天草市がもっている『地域資源の力』を説明し、だから、今後もこれまでの取組みを推進し、その中には歴史や文化を含めていくことを記載したらどうか。ジオパークをやめたからこれまでの政策をやめるのではなく、現状を含め、これから何をするのかを記載す

るほうがよい。

また、この取組みにはこのような価値があるなども記載したほうがよい。今の案のままでは、せっかくよくまとめている資料の内容を読み取ることが難しい。

(事務局)

これまでのことを整理すると、天草にはこのような自然資源があり、このように活用し、また、歴史・文化を含め、さらに取組みを推進していくという想いを政策として整理し、作成したい。

(委員)

短い期間でよくここまでの事業計画を考えられたと思う。ジオパークという言葉は、市民皆さん印象があったと思う。この言葉が外れ、「海にうかぶ博物館あまくさ」へ変更されているが、このことは、天草諸島全域を考えての言葉と思うが、私としては宙に浮いたものに思えてしまう。もっと、天草の地形・地層・化石などを中心に天草の文化や歴史を入れた事業計画がいいのではないかな。

(事務局)

「海にうかぶ博物館あまくさ」という言葉は、以前からジオパークの取組みの中で使用していた言葉になる。今後の活動テーマとして推進協議会の中で決まったところであり、この言葉は使っていきたい。また、島は全国にあり、この「海にうかぶ博物館〇〇〇」を今後の各島々との連携につなげていけないか考えている。

また、今までのジオパークにおける取組みをすべて否定しているものではなく、「審査の在り方」や「ジオパークへの貢献」などにおいて、「4年に一度審査を受け続けていくものなのか」「費用対効果がどれだけあったか」などといった意見があり、十分協議を重ねた中で、『ジオパークの冠を外しても、天草の自然資源を活用した活動は自分たちで必要最低限の取組みができるのではないかな。』ということに行き着いたことをご理解いただきたい。

(委員)

今回の政策では、白亜紀資料館だけではなく、天草全体をイメージすると捉えていいのかな。これまでの地質学的な分野だけでなく、海や山など自然をもっと活用し、現在取組みを行っている事業者との連携も今後計画しているということでもいいのかな。

(事務局)

そうです。

(会長)

このような形で政策を推進するという内容を掲載し、打出していかなければならない。補足説明資料がこの後、推進計画となり、後期基本計画の中で行っていくことと整合できるような形で進めてほしい。他の自治体との調整もあるかもしれないが、天草市が取組む内容をまとめればいいのではないかな。

(事務局)

現在、推進計画の素案となるものを作成中。しかし、2市1町での動きとなるため、策定は4月以降になってしまう。

(事務局)

どうしても広域連携での取組みとなる。計画の素案については、次回の審議会でお示ししたい。

(会長)

計画名のところには、推進計画策定予定として「(案)」という表現で記載してもいいのではないか。策定後にこの「(案)」が消えるという考えで。

(事務局)

検討していきたい。「海にうかぶ博物館あまくさ」については、今後の計画を進めていく中で、周知を行うという流れでもっていきたい。

ちなみに、皆さんの「海にうかぶ博物館あまくさ」の認知度はどうでしょうか。

(委員)

ない。

(委員)

ジオパークを脱退するという事実は、市民の方は「ただやめる」というイメージしかない。せっかくなら、ラジオ等でも周知し、今回伝えられた熱い思いを市民に伝えてもらおうと理解されると思う。

(事務局)

周知においては、広報誌等で行っていく予定。みつばちラジオでも周知を行いたい。

5 その他

(1) 天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

○事務局より説明

(会長)

今回の審議において、この内容を議題ではなく、「その他」とした経緯を説明してほしい。

(事務局)

第1期天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、実践会議において現在、評価・検証を行っている。毎年、本審議会では、交付金における内容について効果・検証の審議をいただいております。このため、今回は議案としてではなく、報告を行った。第2期の戦略策定においては、次回の審議会にて議題として審議をお願いしたいと考えている。次回の審議では必要な資料などがあればご連絡いただければと思う。

(会長)

位置づけを確認すると、総合戦略は、実践会議が策定するものではなく、市が策定するもので、実践会議は、関係者から意見をもらう情報提供の場として位置付けられている。この審議会では、総合計画との整合性の検証が役割であり、その部分も確認をお願いしたい。

(委員)

次回の審議会では、次のことについて説明をお願いしたい。

- ①コネクターハブがどういった事業（取組み）なのか。
- ②オール天草大商談会での経済効果（売上品など）について。
- ③移住定住における他自治体との取組みの違い。また、移住者からの要望。
- ④牛深漁港台場エリア整備事業について。
- ⑤Society5.0 とは何か。

（会長）

今回の審議会では、このことも踏まえ審議をお願いしたい。

（２）天草市SDGs推進計画について

○事務局より説明

（会長）

天草市では、最上位に総合計画を位置づけ、各種計画を総合化し、総合計画の体系の中に、各種の政策や施策計画がある。このため、今回のように、総合計画を基にして、計画を短期間でまとめられるのはメリットである。

SDGsは、世界中で取り組む共通のゴールとして掲げられているものであり、様々な企業や組織、自治体、政府などが共通の目標で考えられるようにしているもの。特に企業の取り組みは積極的に展開されている。天草市においてもSDGsに取り組むことを明確に示すことは、今後の官民連携を進める中で、様々な政策展開にもつながってくる可能性がある。

今回の報告は、途中経過の説明であり、皆さんからの意見をいただきたいとのこと。

（委員）

天草市としては、今回の推進計画を各部署で展開していくということでもいいのか。

（事務局）

SDGsに数値目標はなく、このゴールを目指そうというもの。

まずは、第1ステップとしてSDGsを知ろうということからはじめていきたい。また、この計画は教材としての位置付けもある。

（委員）

これまでの経験で、相談したことが市の担当者と上司の間で情報が共有されていないことが多くあった。情報のSDGsと言うか、情報を直で吸い上げるような仕組みなど、民間と行政が一体となり、天草を支えていけるような連携がとれることでいい方向に進んでいくと期待している。

（事務局）

私たちもまだSDGsについて勉強を進めている段階。民間においても機運が上がってきており、連携し、しっかりと取り組んでいきたい。

（委員）

総合計画とSDGsのつながりでは、まだまだ空白部分が多くある。ぜひ全ての施策計画が何かしらのゴールにつながるよう各事業に取り組んでもらいたい。

（会長）

SDGsは、いろいろな方が取組む共通の言語にもなってきている。総合計画の体系で17のゴールマークをつけることで共通の目標として認識してもらいやすくなる。また、SDGsのゴール・ターゲットを見ていく中で、天草市の総合計画になかったものも発見することができる。部門間の連携などにも今後つなげていくことを期待したい。

総合計画においては、毎年、「評価、検証」を行っており、推進のイメージの中にもぜひ、「天草市は、毎年、総合計画の中で評価・検証を行っている」ということをもって表に出していいのではないかと考えている。

(事務局)

現在は、169のターゲットを視点に総合計画とのつながりについて整理を行っている。SDGsのつながりの空白をどのように埋めていくのかは、事務局内でも検討を行っていたところ。現在は、ターゲットにはないが、ゴールにはつながるのではないかとという項目も出てきており、さらに精査及び調整を行っていく予定。

推進計画の作り方としてはこのような形で進めていきたいと考えている。また、市民向けには、簡易的でコンパクトな資料を作成したいと考えている。

(会長)

それではこれもちまして本日の審議会を終了します。ありがとうございました。

以上